

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成20年6月18日

【評価実施概要】

事業所番号	270201528
法人名	バンドーウエルフェアグループ株式会社
事業所名	グループホームバンドー弘前安原
所在地	弘前市泉野3-12-1 (電話) 0172-89-2601
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年1月28日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 5人, 非常勤 8人, 常勤換算 5.2人	

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4)利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低 69 歳	最高 88 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	高橋医院、デンタルクリニックさとう
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「家庭的な雰囲気の中で落ち着いた生活を維持していく」という理念を掲げている。利用者が家庭という温かい雰囲気、明るく笑顔に過ごせるよう、職員は日々のケアを提供しており、野菜作りや調理等の作業を一緒に行うなどの取り組みを行っている。また、利用者一人ひとりのペースに合わせた柔軟な支援を行うよう心がけており、利用者の言動を急かさず、その日の体調等に合わせた食事や入浴の時間を変更する等の対応を行っている。

重度化や看取りのケアに対応しており、指針を整備した上で、入居の段階から利用者や家族に説明を行っている。状態等が変わった時は医療機関や家族等とその都度話し合いを行って意思統一を図っている。また、協力医療機関を確保するほか、法人内の訪問看護ステーションとの連携をも図って週1回の訪問看護を受け入れる等、医療面での充実したケアを提供できる体制を整えている。

職員は身体拘束の内容や弊害等を理解しており、拘束のないケアを提供するよう努めている。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて、家族に説明して同意を得たり、理由や期間、経過等を記録する仕組みを整えている。

【特に改善が求められる点】

理念を全職員で共有し、その実現に努めているが、地域との関わりに関する事を現在の理念に盛り込んでいくことに期待したい。また、運営推進会議を活用する等、利用者の無断外出時や災害時に地域から協力が得られるような働きかけを期待したい。

ホームの取り組みをより理解してもらうために、運営推進会議のメンバーや行政担当窓口へ自己評価の結果を配布してはどうか。

職員の希望や力量等に応じた研修に平均的に参加できるよう、これまでの研修傾向や職員の希望を把握する等の取り組みにより、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。また、グループホーム協会の研修参加等をきっかけとして他事業者とのネットワークを作り、そこで得られた新たな気づき等を今後の運営に反映させていくことにも期待したい。

栄養バランス等に配慮した献立を作成しているが、保健所や医療機関の協力を得て、栄養士等の専門家から献立に関するアドバイスを定期的に受けられる体制を整備してはどうか。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を基に全職員で改善策を話し合っており、利用者の近況を定期的に家族に報告したり、町会長等を通じて地域へのホーム周知に取り組むなど、できることから実践している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ケアカンファレンスを通じて全職員が評価の意義等について理解を深めている。自己評価はカンファレンスで職員の意見を聞いた上で管理者が作成しており、完成したものは全職員に周知し、確認してもらっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、行事や避難訓練、外部評価結果などを報告している。また、介護保険制度や地域との関係等について意見交換を行っており、メンバーから出された意見は今後の運営に反映させるよう努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>暮らしぶりや健康状態、職員異動、金銭管理等については、面会時や電話等で定期的に家族に報告している。また、面会時に声がけを行ったり、ホーム内外の苦情受付窓口を明示する等、家族が意見等を話しやすい雰囲気を作っており、家族から要望や苦情等が出された時は職員間で話し合いを行い、速やかに対応するよう努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議の委員である町会長や副町会長、民生委員等を通じて地域との関わりを持ち、地域の行事に参加したり、ホームの行事に参加を呼びかける等の取り組みを行っている。また、散歩や買い物時に住民との挨拶を交わす等、近隣との交流を深めている。相談や見学、中学生の社会福祉体験学習等を受け入れるほか、保育園との交流も図っており、地域に開かれたホーム作りを行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念を廊下やホールに掲示する等、職員間での共有を図っており、笑顔の絶えない家庭的な雰囲気づくりを心がけるなど、理念の実現に向けて取り組んでいる。</p> <p>ケアカンファレンス等を通して、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めており、必要に応じて利用者や家族に情報提供を行う体制を整えている。また、虐待防止に関する話し合いを行ったり、管理者が日々のケアに関わって虐待を未然に防ぐよう努めるなど、虐待のないケアを提供している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>サービスを開始するにあたり、ホームを事前に見学してもらったり、利用者や家族との話し合いを行うなど、ホームの雰囲気になるべく早く馴染んでもらえるよう配慮している。</p> <p>ティータイムや趣味活動を一緒に行うなど、日常的に利用者とのコミュニケーションを図っており、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、雑巾作りや畑作業などを一緒に行ったり、郷土料理の作り方を教えてもらう等、利用者と職員が支えあいながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者との日々の関わりや家族からの情報、職員間での話し合いを基に、利用者一人ひとりの状態や意向等を把握しており、介護計画作成時に反映させている。また、介護計画は再アセスメントを行った上で定期的に見直すほか、利用者の健康状態や家族の希望等に変化があった時は随時の見直しを行っている。</p> <p>通院や美容院等に同行したり、雑誌や化粧品の買い物、ラーメン屋への外出等にも出かけており、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>一人ひとりのペースやその日の状態に合わせたケアを提供するよう努めるほか、介助時などは個々の羞恥心やプライバシーに配慮したケアを提供するよう心がけている。</p> <p>利用者の得意分野が活かせるよう、雑巾作りや野菜作り等の役割、千羽鶴折りや絵画等の楽しみごとを促している。また、散歩や日光浴、遠足等に出かけ、気分転換を図っている。</p> <p>居室には馴染みの物が持ち込まれており、また、共用空間には畳やコタツ、ソファ等が置かれており、ホーム内は家庭的な雰囲気となっている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は、地域密着型サービスの役割とは地域との交流等を大切にいくことと理解しているが、それが現在の理念に反映させるまでには至っていない。	○	全職員で再検討を行うなど、地域との関わりについて現在の理念に盛り込んでいくことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を廊下やホールに掲示したり、ケアカンファレンス等を活用して職員間で共有を図っている。また、利用者のペースやできることを尊重し、笑顔の絶えない家庭的な雰囲気づくりを心がけるなど、理念の実現に向けた取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	運営推進会議の委員である町会長や副町会長、民生委員等を通じて地域との関わりを持ち、地域の行事に参加したり、ホームの行事に参加を呼びかける等の取り組みを行っている。また、散歩や買い物時に住民との挨拶を交わす等、近隣との交流を深めている。相談や見学、中学生の社会福祉体験学習等を受け入れるほか、保育園との交流も図っており、地域に開かれたホーム作りを行っている。また、外部の人を受け入れる際には利用者のプライバシーに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	カンファレンスを通じて全職員が評価の意義や活用方法等を理解している。自己評価作成時にはカンファレンスで職員の意見を聞いた上で管理者が作成し、完成したものを全職員に確認してもらっている。また、前回の評価結果を基に全職員で改善策を検討しており、利用者の近況を定期的に家族に報告したり、利用者が一人になれる場所を確保するなど、できることから具体的に実践している。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、メンバーには事前に電話や書面で参加を呼びかけている。会議では行事の報告を中心に、介護保険制度や地域との関係などについて意見交換を行っている。メンバーから出された意見は今後の地域との関係作り等に活かしたり、外部評価結果をメンバーに報告する等の取り組みは行っているが、自己評価結果を説明するまでには至っていない。	○	ホームの取り組みをより理解してもらうために、自己評価結果についてもメンバーに説明してはどうか。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに行政担当者が参画しており、会議時に情報交換を行うほか、広報紙を配布している。運営推進会議を通じて外部評価結果を行政に報告しているが、自己評価結果を報告するまでには至っていない。	○	外部評価結果と併せて、自己評価結果も行政に報告してはどうか。
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ケアカンファレンス等を通して、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めており、必要に応じて利用者や家族等に情報提供を行う体制が整えられている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアカンファレンスや申し送り時に虐待防止に向けた話し合いを行って理解を深めるほか、管理者も日々のケアに関わることで虐待を未然に防ぐよう努めている。しかし、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れなどに関する取り決めは作成されていない。	○	虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れについて取り決めを作成し、それを全職員に周知することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書等を通じてホームの方針や取組み等を利用者や家族に説明し、不安や疑問等があれば対応している。また、契約改訂時や退居時にも利用者や家族と十分な話し合いを行って納得してもらっており、必要に応じて退居先に関する情報提供を行うなど、家族等が不安にならないよう配慮している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては定期的に近況報告書で家族に報告し、健康状態や受診状況、職員の異動等については面会時や電話で報告している。また、金銭管理状況は出納帳に記録し、領収書を添付して毎月家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は職員が声がけし、家族が何でも話せる雰囲気づくりを行うほか、必要に応じて相談場所を確保するなどの配慮を行っている。苦情受付窓口は重要事項説明書や廊下、ホールに明示するほか、運営推進会議を通じて継続的に家族に周知している。また、家族から意見や苦情等が出された時は職員間で話し合いを行い、速やかに対応するよう努めている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や職員は、異動や配置換え等による利用者への影響を理解しており、異動や新しい職員を配置する時などは利用者には十分説明するとともに、職員間での詳細な引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部で外部研修情報を提供したり、職員個々に把握し、必要に応じて勤務体制に配慮した上で受講している。受講後は研修報告書を作成し、ケアカンファレンス等で報告したり、書類を回覧して全職員に周知しているが、ホームとして内部・外部研修の年間計画を作成するまでには至っていない。	○	ホームとしてこれまでの外部研修状況や職員の希望等を把握し、職員個々の力量等に合わせた内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他ホームの管理者との情報交換を行い、新たなレクリエーションを取り入れるなどの取り組みを行っているが、職員間で交流や連携を図る機会までには発展していない。また、グループホーム協会に加入して研修等に参加しているが、そのことをきっかけとして同業者との交流や連携を図るまでには至っていない。	○	法人内の他ホームと職員レベルでの勉強会を実施する等の機会を確保するほか、グループホーム協会の研修を活用したり、地域包括支援センターの協力を得る等、他事業者との交流や意見交換を図る機会を持ち、そこで得られた新たな気づき等を今度の運営に反映させることに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一人ひとりの意向を把握するために利用者や家族と面談を行ったり、ホームの雰囲気を感じてもらうために見学してもらうなどの取り組みを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ティータイムや趣味活動と一緒にいるなど、日常的に利用者とのコミュニケーションを図っており、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、雑巾作りや畑作業などを一緒に行ったり、郷土料理の作り方を教えてもらう等、利用者と職員が支えあいながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や観察等を通して一人ひとりの意向等を把握している。また、意向を把握することが困難な利用者については、全職員で普段のしぐさや言動などを観察して把握に努めたり、必要に応じて家族等からの情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者や家族の意向等を把握するほか、ケアカンファレンスで職員の意見を話し合い、個別具体的な内容となるよう取り組んでいる。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、期間終了後には再アセスメントを行った上で見直しを行っている。また、日頃から利用者の健康状態や家族の希望等を確認するよう努めており、変化があった時は必要に応じて随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションとの連携を図り、週1回の訪問看護を受け入れるほか、通院や美容院等への付き添い、雑誌や化粧品等の購入支援など、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援するほか、協力医療機関を確保したり、週1回の訪問看護を受け入れる等、いつでも気軽に相談できる体制となっている。また、通院方法や受診結果の報告方法は利用者や家族の同意が得られており、結果を随時家族に報告して情報を共有している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りのケアに対応しており、指針を整備し、入居時から利用者や家族に説明している。また、利用者の健康状態について常に職員間で情報を共有しており、状況変化等があった時は医療機関や家族等と話し合いを行って意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への接し方はケアカンファレンス等で確認し、必要に応じて改善しており、利用者を「さん」付けで呼んだり、利用者の言動には耳を傾けるほか、介助時には一人ひとりの羞恥心等に配慮したケアを提供するよう心がけている。また、職員は個人情報保護法について概ね理解しており、個人記録は職員休憩室に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、訴えはその場で聞くよう心がけている。また、その日の利用者の状態に合わせて食事や入浴時間を変更する等、利用者が自分のペースで暮らせるよう柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや苦手な物を把握しており、苦手な物には代替食を提供する等の配慮を行っている。また、食事の下準備や味付け、茶碗ふきなどを手伝ってもらうほか、食事時間は職員も一緒に席に着いて必要に応じてサポートしたり、会話を楽しむ等、和やかな雰囲気となるよう配慮している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴となっているが、その日の体調や希望に応じて利用者との話し合いを行って対応している。入浴時はつきりすぎ等がないよう見守りし、必要に応じて洗身の介助を行う等の支援を行っている。また、入浴を拒否する利用者には時間を置いて再度促す等の工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力量等を把握しており、雑巾作りや野菜作り等の役割や、千羽鶴折りや絵画等の楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望等を取り入れながら、雑誌や化粧品等の買い物、ラーメン屋への外食等に出かけている。また、近くの公園への散歩や中庭での日光浴、年4回の遠足等も行っている。外出時は利用者の健康状態を考慮し、車椅子を使用したり移動距離に配慮する等の対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス等を通じて、職員は身体拘束の内容や弊害を理解しており、拘束は行わない姿勢で日々のケアに取り組んでいる。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備え、家族に説明して同意を得たり、理由や期間等を記録する体制を整えている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室等、ホーム内の利用者が出入りする場所は施錠していないが、ホームが大通りに面しており、交通量が多いこと、不審者侵入防止の観点から、家族に理由を説明して同意を得た上で、玄関に鍵をかけている。外出傾向を察知できるよう見守りを行っており、察知した時は職員が付き添う等の対応を行っているが、無断外出時に近隣からの協力が得られるような働きかけは行われていない。	○	運営推進会議を活用する等、無断外出時に近隣からの協力が得られるような働きかけを行うことに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練や消火器訓練等を利用者と職員と一緒に実施している。しかし、災害時に住民からの協力が得られるような働きかけや、食料や飲料水等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	町会長等の協力を得ながら、災害時に地域からの協力が得られるような体制を作ったり、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、提供している一日の総摂取カロリーや水分量を概ね把握しており、摂取状況に応じて記録している。献立は、利用者の希望や栄養バランスを考慮して職員が作成しているが、栄養士等の専門家から指導や助言を得られる体制にはなっていない。	○	保健所や医療機関の協力を得ながら、栄養士等の専門家から定期的に献立に関する指導や助言を得られるような体制を作ること期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルが整備されており、行政や法人本部から最新情報が入った時などは見直しを行っている。また、職員はケアカンファレンスを通じて理解を深めている。感染症に関する情報は、運営推進会議の時に話したり、運営推進会議の会議録を送付するなど、家族にも提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には椅子やテーブル、畳、こたつ、ソファ等が置かれているほか、廊下には季節感のある装飾品が飾られており、家庭的である。また、照明やテレビ等の音量も適切であり、過ごしやすい環境作りが行われている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には鏡台や小タンス、家族の写真、愛用している本、化粧品、布団等が持ち込まれており、その人にとって居心地の良い部屋となっている。		

※ は、重点項目。